



かさはら

学校だより 8月号
平成30年7月20日
多治見市立笠原小学校

<学校の教育目標> やさしく かしこく たくましく

家庭や地域で学び、成長する夏休みに！

4月からの4ヶ月間、どの学年の子ども達も学力、生活力ともにめざましい成長を遂げることができました。「分かるようになった」「できるようになった」ことは、子ども達自身も保護者の皆さんにとっても、わたしたち教職員にとっても大きな喜びです。明日から39日間の夏休みに入りますが、まずは安全で健康な生活を送ること、そして様々な体験から学び、豊かな感性を身につけてくれること、これまでの学習での課題を克服したり、得意な教科をさらに伸ばしたりする努力をしてくれることを願っています。

自動車用品販売メーカー「イエローハット」の元社長鍵山秀三郎さんは「日本を美しくする会／掃除に学ぶ会」をつくり、今はその会の相談役をしてみえます。『心を磨くトイレ掃除』というお話の中で、トイレ掃除に取り組むことで次のような効果があるといってみえます。

1 謙虚な人になれる

どんなに才能があっても、人は人を幸せにすることはできない。
人間の第一条件は、まず謙虚であること。

2 気づく人になれる

世の中で成果をあげる人とそうでない人の差は、無駄があるか、ないか。
無駄をなくすためには、気づく人になることが大切。

3 感動の心を育む

感動こそ人生。できれば人を感動させるような生き方をしたい。そのためには自分自身が感動しやすい人間になることが第一。人が人に感動するのは、一所懸命取り組んでいる姿。

4 感謝の心が芽生える

人は幸せだから感謝するのではない。感謝するから幸せになれる。小さなことにも感謝できる。感受性豊かな人間になれる。

5 心を磨くことができる

心を取り出して磨くわけにいかないのだから目の前に見えるところを磨く。
きれいにすると、心も美しくなる。人は、いつも見ているものに心も似てくる。

笠原小の子ども達の熱心に床を磨く姿、ゴミが残っていないかを隅々まで見て掃き掃除をする姿。掃除だけでなく、「がんばってね」「大丈夫」「ありがとう」…という言葉が学校生活の中でよく聞こえてきます。これは、相手への気配りや思いやりの心、感謝の心が育っているからであり、こんな姿を見るとまさに鍵山さんのおっしゃることに通じる部分を感じます。



夏休みは家庭や地域での生活が中心となりますので、家族の一員として、地域の一員としての自覚を感じられる生活をしてほしいと思っています。家庭ではできる範囲で日頃お家の方がしてみえる仕事を任せてください。誰かのために動き、役に立った、感謝された経験は子ども達の次なる意欲につながります。また、日頃いただいているお家の方への感謝の気持ちが生まれるかもしれません。物事を行なう要領(能率)がよくなるという効果が生まれるかもしれません。夏休みだからこそできる家庭教育のチャンスを生かしてみませんか。

<<8月・9月の予定>>

日	曜	8月	日	曜	9月
1	水	プール開放日	1	土	
2	木	プール開放日	2	日	資源回収
3	金		3	月	PTA挨拶運動 夏休み作品展
4	土	いこまい祭り	4	火	3年身体測定
5	日		5	水	2年身体測定
6	月		6	木	1年身体測定
7	火		7	金	つくし身体測定 P英会話担当者会
8	水	学校閉校日(~16日)	8	土	市科学作品展 市発明工夫展(9日まで)
9	木		9	日	資源回収(予備日)
10	金		10	月	クラブ
11	土		11	火	読み聞かせ
12	日		12	水	
13	月		13	木	授業参観 防災体験 1・4年心電図検査
14	火		14	金	P母親委員会
15	水		15	土	
16	木		16	日	ノーテレビノーゲームデー
17	金	PTA生活委員会	17	月	敬老の日
18	土		18	火	ノー残業デー
19	日	幼保小中愛校作業 ノーテレビノーゲームデー	19	水	笠原中体育大会
20	月		20	木	
21	火	サマースクール	21	金	
22	水	サマースクール ふれあい食堂(児童館)	22	土	
23	木		23	日	秋分の日
24	金		24	月	振替休日
25	土		25	火	クラブ 親子英会話 学校運営協議会
26	日		26	水	
27	月		27	木	
28	火	夏期休業終了日	28	金	P本部役員会 ノー残業デー
29	水	全校集会 午前授業 学校運営協議会	29	土	笠原幼稚園・保育園運動会
30	木	午前授業 夏休み作品展	30	日	
31	金	午前授業 夏休み作品展			

9月の授業参観日変更のお知らせ

4月PTA総会の資料においてお知らせした9月の授業参観日を防災に関する家庭教育学級実施のため日程変更をしますので、よろしくお願ひします。

変更前 9月11日(火)→変更後 9月13日(木)

多様性を尊重できる大人になるには

教育推進課

「障がいのある人を見かけたら、どうすればいいですか？」と聞かれることがあります。私は車椅子で一人でどこでも出かけます。困ったときに頼りになるのは近くにいる人です。北米や欧州では、助けを求める前に多くの人が声をかけてくれます。声をかけられる頻度が一番少ないのは、残念ながら日本です。そして、日本国内でも声をかけてくれるのは外国人が圧倒的に多く、次いで障害のある家族がいたとか、学校で車椅子を使っている友達がいたなど、車椅子ユーザーと接したことがある人や、身近に感じている人たちです。

子どもたちが、多様性を尊重できる大人になるには、成長の過程でどのようなことが必要になるのでしょうか。多種多様な人、自分と違う価値感をもった人と接する機会を増やす。考えすぎる前に、わからないことは聞いてみる。一緒にやってみる。対話や経験を通してお互いを理解していくことが効果的だと思います。

(「アイユ」5月号 マセソン美季(長野冬季パラリンピック金メダリスト))